

case  
**04** とび

ものづくりマイスター 派遣先学校  
湯川 慎弥 さん 千葉県立市川工業高等学校



「考えること」を大切にする指導が  
生徒の“次”につながる経験に

■ 千葉県立市川工業高等学校

〒272-0031 千葉県市川市平田3-10-10

設立年 昭和18(1943)年  
学校長 野崎 一哉  
学科 機械科、電気科、建築科、インテリア科  
在校生数 743名(2019年11月現在)



76年の歴史を持つ千葉県立市川工業高等学校。学科には、機械科、電気科に加え、県内では唯一という建築科とインテリア科があります。「社会に役立つ優秀なものづくり技能者の育成」を教育目標に、ものづくりマイスター事業などを活用しながら知識と経験の両輪で生徒の学びを充実させています。

ものづくりマイスターの派遣を依頼した理由

学んだ知識を「経験」することで  
考える力や創造性を発揮してほしい

背景 生徒の可能性を広げたい

生徒たちが自分の人生を考えはじめ、やりたいと感じたことに対して、私たちが支援できる方法の一つがものづくりマイスター事業の活用でした。ものづくりマイスターから現場で使われている生きた技能を指導していただくことは、生徒の可能性を広げる機会となるのはもちろんですが、私たち教員にとっても勉強であり糧にもなっています。今回の受講者は、施工管理に興味を持ち、幅広く現場の作業内容を知りたいと希望する3年生の生徒でした。今まで、彼らは現場見学などの機会がなかったため、社会に出る前に現場体験をして欲しいという思いもありました。

効果 将来に役立つ技能を身体で覚える

本校の生徒を見ていると、分からないことはすぐ人に聞いて解決しようとする傾向がありました。しかし、ものづくりマイスターの指導を受け、自ら「考える」というプロセスの大切さに気づいたようで、その変化が嬉しかったです。また、とびの仕事に関する知識や実践は、彼らの将来においても役立つと期待しています。自らが身体を動かして覚えた知識や技能は、資格取得に取り組む時、仕事を始めた時など、これから何かがあった時に思い出すことが多いはず。こうした指導を通して、生徒たちには、どうすれば目標が達成できるのか、自ら考えて主体的に取り組めるようになってもらいたいと考えています。そのためにも、今後さまざまな体験をさせてあげたいですね。



千葉県立市川工業高等学校  
建築科  
すどう あやこ  
須藤 綾子さん



📄 プログラム内容

実施課題 足場の組立て  
目的 とび職の役割と作業の理解  
受講対象 建築科3年生 11名  
ものづくりマイスター 湯川 慎弥

1回目 くさび緊結式足場

2回目 単管パイプを使用した実技(技能検定3級レベル)



概要

教育プログラムでは、建築現場に欠かせない「足場」について座学と実技指導を実施。1回目は現在の主流である「くさび緊結式足場」、2回目には「単管パイプを使用した実技」の指導を行いました。作業服、部材、工具の使用方法などの基礎的な解説を踏まえ、組立時における部材の平行位置の確認や計測、工具を使った連結や取り外し、基準柱の立て方などを実践。生徒たちは、安全の確保や手順のポイントなどを一つひとつ確かめながら、実作業に取り組みました。

INTERVIEW

ものづくりマイスターと 受講者が語る

# 考えが変われば行動が変わる 本質を問いかけ「考える力」を養う実技指導

## 次世代を見据え主流と ベーシックな工法を指導

とびの仕事の役割や作業などを伝える趣旨で、「足場」を題材に座学と実技を織り交ぜた指導を行った湯川マイスター。今回の実技指導で取り上げた内容にはこんな狙いがあったといいます。

**湯川** 足場の組立て方法は多種多様がありますが、「単管パイプ」を使った足場の組立ては、他校の生徒さん向けに今まで伝えてきたので、市川工業高校のみんなにも内容を知ってほしくて紹介しました。また、1回目を取り上げた「くさび緊結式足場」は次世代の工法です。時代に沿ったものを少しでも理解してほしくて、今回はじめて実技指導を行いました。

**木戸** 僕たち第1号だったんだ。ラッキーですね！

**宮崎** 授業で似たような作業はしていましたが、実際の大きさに実践するのは

初めてでした。最初は難しかったけど、足場の結束の方法を分かりやすく教えてもらい勉強になりました。あと、「上手いね」と言ってもらい、とても楽しい気持ちで作業に取り組みました。

**木戸** 湯川マイスターは実技を簡単そうにされますが、自分たちがやってみると非常に難しかったです。一つひとつの考え方や行動が洗練されていると感じました。

**宮崎** 僕たちが授業で本物に触れる機会はあまりありません。校外学習はあったけれど、現場を遠目から見るだけで職人さんが何をしているのか詳しく分からなかったんです。だから、湯川マイスターから現場で使われている実際の知恵を学べて本当に嬉しいですね。

## まず考えること その先に行動がある

「職人の世界は身体が資本」。湯川マイ

スターは健康が一番だと強調します。授業でも、そのことについて生徒へ問いかけるように心がけているそうです。

**湯川** 怪我や病気をかかえると、仕事でパフォーマンスを発揮しづらくなるだけではなく、周りの人に迷惑をかけてしまうことさえあります。そのため、最高のコンディションで現場へと向かうことは、いい仕事をするためにも、安全に一日を終えるためにも必要です。そうした考え方を、私は大事にしています。考えがあって行動が生まれるのではないのでしょうか。みんなには、そうした考え方や柔軟な発想をもとに、勉強でも仕事でも壁にぶつかったときに、自分で何かをアレンジ



したり、工夫したりできる人になって欲しいですね。

**宮崎** 湯川マイスターが真剣に話すのを聞いているうちに、自分の中にも安全への意識が芽生えてきました。

**木戸** 湯川マイスターは、柔軟な方で授業中でもオンオフの切り替えがすごい。資格もたくさん持っていて、それらの取得も「自分の気持ち次第」だよと教えてくれました。それを聞いて、「毎日コツコツ」を大切にしようと思いました。

**湯川** みんな素直で、私もリラックスして話しやすかったです。私なりの工夫を詰めた授業に興味を持ってくれると教員がいがありますね(笑)。

## 高校3年の限られた時間 いかに濃い体験ができるか

ものづくりマイスターによる指導は、学校にとっては「教員の指導との相乗効果」、生徒にとっては「より密度の濃い授業」や「キャリアビジョンの提供」という側面で役立つのではないかと湯川マイスターは語ります。

**宮崎** 僕は大工の祖父の影響で建築科を選びました。最終的には1級建築士の資格を取って、立派な現場監督になること

が目標です。今回、現場に欠かせない足場の組み立て方を知ることができて良かったです。就職が決まった後の授業だったので、もう少し早い時期に経験できたら、自分の道を決める選択肢が広がる人も多かったかもしれませんね。

**木戸** 自分がとび職にならなくても、今回教えていただいた内容は将来きっと役に立つと思います。仕事では、社会人としての立ち振る舞いや、先輩・後輩との人間関係、仲間同士の連携なども大事なことだと思うので、そういうことも学べて良かったです。あと、実際に経験して学ぶことが大切だと感じました。

**湯川** みんなの「次につながる」経験になるよう、全力投球しました。高校3年生という卒業までの限られた時間の中で、こうした経験をもっと積んでもらいたいし、経験した後は自分の成長や将来設計につなげて欲しいですね。



全力投球で伝えたい！  
「次につながる」座学と  
実技を精一杯考えました

通常の授業や会社見学では  
出来ない経験、「足場」の  
大切さを知りました

マイスターを見習って  
オンオフの切り替えを  
勉強に役立てたいです



ものづくりマイスター (とび) ゆかほしんや 湯川 慎弥さん



建築科3年 みやざき たかのぶ 宮崎 崇暢さん



建築科3年 きど とうや 木戸 闘我さん



## ものづくりマイスター 湯川 慎弥さん

平成28年度 厚生労働省「ものづくりマイスター(とび職種)」認定

### 指導内容

技能検定(とび)レベルの座学・実技の指導など

### 技能指導の実績

とび技能検定課題レベルの指導など

現場に立つたかわら、2018年春からものづくりマイスターとして活動を開始。その原点にあるのは、大好きなサッカーを子どもたちに指導する中で発見した「喜び」にあるといいます。生徒一人ひとりの名前を呼び、アイコンタクトを欠かさない湯川さん。愛情が伝わる指導に、生徒もリラックスして真摯に受講しています。